



遅くなりましたが、あけましておめでとうございます

2025年が始まりました。今年は聖年です。聖年について皆さまはどれくらいご存じでしょうか？

一番最近の聖年は2015年の「いつくしみの特別聖年」、その前は2000年の大聖年でしたが、私はその当時はあまり大きくとらえず、特に何もせずに過ごしてしまいました。

聖年は私たちに与えられた大きな恵みです。聖年は25年に一度しかないもので、生涯のうちに2, 3回しか経験できません。

今年は聖年への理解を深め、聖年の恵みを存分に受け取りたいと思っています。今年も皆さまにとって恵みにあふれたよい一年になりますように。

+++++

デ・スーザ神父様の黙想会の感想

自己愛ばかりが強調される社会にあって、デ・スーザ神父様が行ったセミナーは、クリスチャンが隣人に対してどのように愛すべきかを思い起こさせてくれるものでした。神様が私たちを最初に愛してくださったから、私たちは隣人を愛することによって神様の愛を示すことができます。

見沼区 タートン

+++++

青年会活動報告



12月のMFCの集いは、毎年恒例の活動であるクリスマスに子供たちへのプレゼントを用意しました。

今年はインフルエンザが大流行しており、プレゼントの選定にかなり気を遣いましたが、無事にプレゼントを渡すことができました！

予想より多くの子ども達に来ていたので、最後の方はプレゼントが足りなくなるほどでした。

内容【デ・スーザ神父様の黙想会の感想】【青年会活動報告】

【信徒委員会】信徒総会【典礼部】クリスマス飾付【総務部】駐車場【成人養成部】

【毎日のミサ購読】【「和解」をお読みください】

【2025年 聖年 (Jubilee) について】【サモア～主によばれて (35)】

+++++
<信徒委員会・各部からのお知らせ>
+++++

<信徒委員会より>

* 信徒総会：1月26日（日）ミサ後に行きます。決算の承認ですので、短時間で終了します。できるだけお帰りにならず、ご参加願います

<典礼部より>

* 馬小屋とイルミネーションの撤去作業にご協力いただき、ありがとうございました。

<総務部より>

・ 駐車場を利用する場合は必ず駐車許可証をダッシュボードに置いてください。（小聖堂・幼稚園事務所棟前に駐車する場合も）駐車許可証を持っていない方は、受付で届け出をしてください。**門の前のスペースは緊急車両用ですので、絶対に駐車しないでください。**

<成人養成部より>デコレーション部

* クリスマスデコレーションへのご協力と、撤去作業のご協力、ありがとうございました。

* デコレーション部は今年から成人養成部の傘下で活動することになりました。

<毎日のミサの年間購読について>

「毎日のミサ」の年間購読を個人でされている方へご提案です。

大宮教会で「共同購入」をされませんか。共同購入されることで、カトリック出版部より、大宮教会への特典として、神父様の購読分、教会使用分の補填が増えます。どうぞご検討ください。尚、大宮教会の共同購入の期間は、新年度からとなります。申し込みは、2月よりお受けします。

「毎日のミサ」購読係 須田

+++++
<「和解」をお読みください>
+++++

1階ロビーのチラシ等を置いているテーブルに「和解」という小冊子を置いています。これは所沢の聖ペテロ・パウロ労働宣教会の Br.ジュリアーノが中心になって運営している被拘禁者更生支援ネットワーク麦の会の機関紙です。

麦の会は罪を犯して刑務所で服役している受刑者の方々を支援する団体です。

受刑者が起こした事件や事故の被害者の気持ちを考えれば、なぜそのような人々に寄り添わなければならないのか、と思う方も多いと思います。しかしイエス様はすべての人に神様の愛を注がれます。すべての人にゆるしが必要なのです。

今、多くの受刑者が文通を希望しているにも関わらず、ボランティアが不足し、手紙を待っている人がたくさんいます。

文通ボランティアは教誨師（きょうかいし：受刑者に対し、その非を悔い改めるよう教えさとす人）ではありませんので、彼らにキリスト教のことを詳しく教えたり、罪の償いのために諭したりするのではなく、ごく普通の一般社会で生活する者として、獄中の人々の苦しい服役生活の活力源となるように、温かい言葉をかけたり、塀の外と繋がることで、出所後の生活への希望を持ってもらうというのが務めだと思えます。

自分の住所を伏せて、麦の会あてに手紙を送ってもらうことも可能です。

興味のある方はお声がけください。お待ちしております。

岩槻区 槻田

＋2025年 聖年 (Jubilee) について

(12/29のミサの中で山口神父様が解説していただきましたので紹介します。)

神様は6日を費やしてこの世を創造された後、7日目に休まれました。

それに倣って私たちにも6日働いたら7日目は休み、感謝し、祈るための安息日が与えられました。ユダヤ教では、バビロン捕囚前までは、ヨベルの年(英語でJubilee)という習慣を守っていました。畑の土は何年も作物を作っていると栄養分がなくなり、そのため6年間農地として利用したら、7年目は休耕地として休ませる、これが安息年ですが、それを7回(7×7=49年)繰り返した次の年、50年目は雄羊の角笛(ヨベル)を鳴り響かせ、特別な恵みの年であるヨベルの年の到来を告げます。この2年間、一切農作業をしないため、普通であれば国民が食べるのに困ります。神様は人々のためにその前の年を大豊作にし、2年間食べ物に困らないようにしてくださいました。

(レビ記25章1～40を参照)

ヨベルの年はそれまでの49年間をやり直す年です。

あまりの貧しさから人に土地を売ってしまった人には土地が戻され、借金を負った人はその負債を帳消しにしてもらい、奴隷となった人は解放される…それまでの重荷が全部なくなり、また0からスタートするので。

日本にもそんな習慣があるといいですね。

中世の教皇ボニファティウス8世が突然聖年を復活させることにしました。(きっと神様からの恵みだったのだと思います。)

そこで西暦1300年は聖年に制定され、100年後の1400年が次の聖年となりました。しかし100年に1回ではその恵みに与えられる人が限られてきます。そこで、50年に1回、さらに人の寿命を考えて25年に1回と改定されて現在に至ります。

聖年に何をすれば恵みを受けられるか、というとローマに行って4つの大聖堂を訪れ、そこでのミサに与り、祈り、ゆるしの秘跡を受け、パパ様の意向がかなうように祈りをすれば、大きな罪のゆるしと免償が受けられるということです。

免償というとちょっとわかりにくいと思います。免償が免除されるという意味です。

一生懸命信仰に生きてても大抵の人は死んでから煉獄に行くと言われていました。そこで罪の清め(償い)をしなければなりません。地獄に行くのはよほどの悪い人、天国に行くのは特別な聖人、ほとんどの人は煉獄に行くと言われていました。その償いが免除されるということです。

例えば闇バイトで罪を犯し、逮捕されて懲役2年になった若者が刑務所に入っている間に、本当に回心して、これからは絶対に罪を犯さないようにしようと決心し、刑期を終えて出所すれば、社会的にも罪を償い、神様の目から見ても心を入れ替えて償いをしたことになります。しかし同じく懲役2年を過ごしても、自分の罪を認めず、他人のせいにして、心を入れ替えないのであれば、社会的には罪を

償ったことになっても、神様の目からは償いを果たしたことにならないので、死んでから償いをしなければなりません。

ゆるしの秘跡を受けて、例えば司祭にアベマリアの祈りを2回唱えるようにと言われた時に、本当に心を入れて祈る場合と、ただ形ばかりの祈りをするのは全く違います。どれが償いになって、どれが償いになっていないかは神様がお決めになることなので、私たちにはわかりません。

25年に一回の聖年の時、昔は世界中の人々が全財産を使って、遠路はるばる歩いてローマまで行っていました。途中で体を壊したり、盗賊に会うかもしれない、ものすごい犠牲を払って、命がけでローマに行きました。そうしてローマに行って祈ることで、全免償、つまりこれまでの人生で償わなければならない償いが全部免除されるとパパ様が保証したのです。パパ様はこの世のキリストの代理人なので、イエス様が保証したのと同じことです。

そういうわけで、聖年には世界中の人たちがローマを訪れてきたのです。

今年(2024年)も11月ごろはローマの町中が大掃除をして人々を受け入れる準備をしていたようです。

さらにこの願いは自分の償いだけでなく、すでに亡くなった人、自分の家族や友人知人、恩のある人のために祈ると、その人達の償いも免除され、即座に煉獄から天国に上げられると言われていました。

近代になり、金銭的、体力的な理由などでローマに行くことができない人のために、それぞれの教区の司教様がいる教会(カテドラル)を訪れて祈れば、同じように全免償を受けることができることになり、さらにカテドラルを訪れることも困難な人のために、各地に司教様が指定した教会を訪れて同じように祈れば全免償を受けることができるようになりました。

さいたま教区のカテドラルは浦和教会、2025年の指定教会は太田教会(群馬)、松が峰教会(栃木)、水戸教会(茨城)です。

またさいたま教区では長江司教様の時に、司教が訪れてミサの司式をすればその日はその教会がカテドラルになる、ということになりました。その日にその教会のミサに与り、祈り、ゆるしの秘跡を受ければ、巡礼をしたのと同じように全免償が受けられるのです。

この1年間山野内司教様が各教会をめぐって司式されます。大宮教会は11月にいらっしゃることになっています。

ちなみに聖年は12月29日聖家族の日始まり、来年の聖家族の日幕を閉じます。

※聖年のテーマやロゴ、パパ様のメッセージ等は1階ロビー壁面に聖年の情報ボードを設置し、そこに掲示しますので、お楽しみに。

※大きな恵みの年である2025年を共に信仰と希望のうちに過ごしましょう。

† サモア～主に呼ばれて (35) †

結婚式の打ち合わせといっても、ほとんど佳美にお願いすることばかりでした。

結婚式の司式は私が洗礼を授けていただいたローランド神父様にお願いすることになりました。その当時ローランド神父様は浦和教会の主任司祭から、パリミッションの日本管区長となり、文京区の音羽にあるパリミッションの本部にいらっしゃいました。

また、結婚式は浦和教会で行いたいと思っていましたので、浦和教会に行ってもらわないとならない上に、佳美には知り合いもない状況でしたので、援助修道会の Sr.小塚に手紙を書き、事情を伝えました。

佳美には私の両親にも会ってもらうことになりました。普通は私が親に紹介するという形ですが、一人で会いに行ってくれというのはいないですね。ひどい話です。

幸い、プロポーズをした後からは、イグナチオ教会に通ってくれていたようで、洗礼も結婚前には受けられそうでした。また、披露パーティーやら、参加者へのプレゼント、招待状の発送、貸衣装のレンタルなど教え上げればきりがなくらい、たくさんのお世話を一人ですてくれました。

結婚の準備に関しては今でも頭が下がります。その佳美も帰国し、いつもの生活に戻りました。

授業をして、2 時過ぎにボランティアハウスに戻り、昼食を食べてのんびりです。火曜日以外はすることもあまりありません。暑い日は、ニュージーランド人のボランティアと一緒に近くのプールに行きました。

プールまでは徒歩で 5 分くらいの距離で海沿いがありました。コンクリートでプールの壁が作ってあり、海沿いですがあまり海水は入ってこないようになっていました。湧水がそこから出てきていました。とってもしきれいな水で、海よりきれいです。ときどき海水が混じってしまうので、完全な真水ではありませんが、泳ぐのには快適でした。

ただ、真水ということで近所のサモア人の主婦の方が、洗濯に來たりしていました。石鹼で洗うので、そのせっけん液がプールに入ってしまうのですが、こちらは地元の間人ではないので文句も言えません。地元の子供たちも文句を言わずに入っています。ま

た、海からは海水だけでなく、魚も入ってしまうようで、きれいな熱帯魚が何匹か泳いでいました。このプールは昨年サモアに行った時は見つけることができず残念でした。

それでも毎日泳ぎには行かないので、他の日にやることを考えていました。ちょうど学校にタイプライターがたくさんありました。生徒が就職することを考えて、タイプライターの授業がありました。授業の名前は、Business (ビジネス) です。フィリピン人のボランティアが教えていました。

フィリピン人のボランティアは夫婦で来ていて、ご主人の方が Business を教え、奥様は家庭科を教えていました。個室のボランティアハウスとは別に、家族で住めそうなボランティアハウスがありました。お二人はそちらに住んでいました。

私たち独身ボランティアとは、住まいが違うのでほとんど交流はありませんでした。50 代半ばくらいのお二人ですので、話すことも特にありませんでした。お名前も覚えていないくらいです。失礼ですね。

英語圏では、タイプライターがあれば手紙がきれいに作成できますので、昔からタイプライターはよく使われていました。キーボードをいちいち見なくても、原稿と打ち出されてくる文字を見ていれば、早く打つことができるので、キーボードを見ないでやるブラインドタッチは重要です。これを覚えて、素早く打てるようになるのが目標でした。日本では電動タイプライターが普及していた時代ですが、サモアにはありませんでした。手動のタイプライターはキーを押すのに力が要ります。

日本ではワープロが広まり始めたころで、キーボードが早く打るといいかなと思い、放課後に毎日練習することにしました。最初に指を置くホームポジションを覚えて、毎日 30 分くらいずつ練習しました。英語の本は手近なところにたくさんあるので、毎日少しずつ本を手本のようにして、練習していました。1 か月弱で何とか身に付いたので練習は終わりにしました。その時に、一生懸命したおかげでこの原稿を書くのもパソコンの画面だけ見ていけばよいので、早く入力することができています。

見沼区 齊藤

🍀 おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.net>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿 (本などの感想、特集してほしいことなど) を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 2 丁目 3 5 0 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 2月号は 2/16

発行予定、原稿締め切り 2/2

